



「ハンドルの重みは命の重み」を胸に刻み 悲惨な交通事故をゼロへ

給付型の支援を今後も進め
交通遺児の修学を支えていく



1942年生まれ。北海道大工学部卒業後、日新製鋼入社。呉製鉄所エネルギー技術課、本社人事部などを経て、96年交通遺児育英会出向。事務局長、専務理事、理事長を歴任し2023年6月より現職。

公益財団法人交通遺児育英会は1969年の設立以来、保護者が道路上の交通事故が原因で亡くなったり、重度の後遺障がいを負ったりしたため、経済的に困窮する子どもたち（交通遺児）に、学資の支援を続けてきた。交通遺児を生まないために交通事故・飲酒運転ゼロを目指し、交通安全推進運動への協賛・協力事業も展開している。

同会は、飲酒運転撲滅を目指すTEAM ZERO FUKUOKAの一員でもある。会長の石橋健一氏と福岡市を拠点に活動する認定NPO法人はあとスペース理事長の山本美也子氏が、交通遺児支援、交通事故と飲酒運転の撲滅について語り合った。

公益財団法人交通遺児育英会
会長

いしばし けんいち
石橋 健一 氏

認定NPO法人はあとスペース
理事長

やまもと みやこ
山本 美也子 氏



1968年生まれ。2010年「はあとスペース」設立。車いす優先駐車場のマナー啓発、障がい者スポーツの支援などを行う。11年に飲酒運転事故により16歳の長男を亡くす。飲酒運転撲滅の声を上げ、啓発に力を注いでいる。

飲酒運転撲滅を発信し続け
「ゼロが当たり前」の社会へ

交通遺児への支援とは。石橋 大きく五つの事業に取り組んでいます。「奨学金の貸与（一部給付）」「修学支援金給付」「奨学生の指導と育成」「学生寮の運営」「交通安全の推進」です。中心は奨学金事業です。22年度は944人が奨学生として高校、大学、大学院、専修学校などに通い、支援した奨学金の総額は5億9800万円でした。無利子貸与に加え、給付型奨学金も強化しています。20年度からは大学生以上に月2万円、本年度から高校生に月1万円の給付型奨学金を開始しました。山本 給付型だと、社会に

「せめて高校だけは」遺族の声がきつかけに
交通安全推進運動への協賛・協力事業も展開している。石橋 はあとスペースを設立したのは2010年です。山本 はい。最初に取り組んだのは車いす優先駐車場のマナー啓発です。11年に事故で息子を亡くし、飲酒運転ゼロを目指す活動も始めました。障がい者スポーツ支援、地域の子どもたちの居場所となる「まちかど図書館」の運営もしています。五つの支援事業で交通遺児の学びを支える

出た後の返還の負担が軽くなります。石橋 修学支援金も給付型です。家賃補助（月額1万5千円）、上級学校を受験する高校生への受験料補助（上限5万円）、自動車運転免許取得費用補助（同15万円）があります。山本 「育英会と出合ったことで勉強が続けられた」という人に会ったことがありまして。交通遺児への奨学金もあって学校に通い、議員になったと。福岡県の飲酒運転撲滅条例制定に尽力してくれた議員の一人です。交通遺児として支援を受けた人が、今度は私たちが遺族の力になってくれている。つながりを感じました。

山本 給付型だと、社会に
出た後の返還の負担が軽くなります。石橋 修学支援金も給付型です。家賃補助（月額1万5千円）、上級学校を受験する高校生への受験料補助（上限5万円）、自動車運転免許取得費用補助（同15万円）があります。山本 「育英会と出合ったことで勉強が続けられた」という人に会ったことがありまして。交通遺児への奨学金もあって学校に通い、議員になったと。福岡県の飲酒運転撲滅条例制定に尽力してくれた議員の一人です。交通遺児として支援を受けた人が、今度は私たちが遺族の力になってくれている。つながりを感じました。

山本 同じ境遇の家庭だからこそ話せる悩みがありますし、互いに勇気づけられ、頑張れることもあると思います。そんな場所がもっと広がると思います。石橋 参加する皆さんは話が尽きないようです。集まりの場には育英会の職員も参加します。何に困っているのか、どんな支援を求めているのか、率直な声を聞く場となっています。今年は高校奨学生の海外語学研修も再開し、夏休みに3週間、米国へ20人を送り出しました。高校卒業後、首都圏、関西圏の学校へ安心して進学できるように、東京では2食付き月額1万円、関西では同1万5千円、2万5千円の学生寮「心塾」の運営もしています。

山本 同じ境遇の家庭だからこそ話せる悩みがありますし、互いに勇気づけられ、頑張れることもあると思います。そんな場所がもっと広がると思います。石橋 参加する皆さんは話が尽きないようです。集まりの場には育英会の職員も参加します。何に困っているのか、どんな支援を求めているのか、率直な声を聞く場となっています。今年は高校奨学生の海外語学研修も再開し、夏休みに3週間、米国へ20人を送り出しました。高校卒業後、首都圏、関西圏の学校へ安心して進学できるように、東京では2食付き月額1万円、関西では同1万5千円、2万5千円の学生寮「心塾」の運営もしています。

安全意識の向上と
支援の広報活動も強化

利用者の声
家族や仲間を支えられ、小学校教諭に
教育で子どもに交通安全を伝えたい

「小学校の先生になりたい」と大学に進学しました。コロナ禍でのスタートでしたが、同じ夢を持つ友人と出会い、一緒に頑張ろうと声をかけ合うことができました。小学校の他にも幼稚園と特別支援学校の教員資格を取得。二つの飲食店でアルバイトを続け、忙しいこともありましたが、採用試験に無事合格し、春から小学校教諭として一歩を踏み出します。

父を亡くしたのは1歳半の時。けれどあまりさみしい思いをせずに育ちました。母や姉、友人の支えがあったからだと思えます。交通遺児育英会で同じ奨学生として、年の離れた仲間と交流できたことも大きな助けになりました。支えてくれた人について感謝を伝えたいです。

私も車を運転するようになり、交通事故・飲酒運転をなくすには、ドライバーが気を付けるだけでは足りないと感じています。運転しない人やお酒を飲まない人、みんなが協力し、注意し合うことが必要です。教育を通じて子どもたちに事故の怖さ、交通安全の大切さを伝えたいと思っています。

いとうみゆ
(福岡女学院大学4年 伊東弥祐さん 22歳)

交通安全の推進について

石橋 交通遺児の支援と同時に大切なのは、交通遺児となる子どもがいない安全な社会をつくることです。ドライバーの安全意識向上のため、企業の研修や学校での無料出張講演会を実施。育英会奨学生や保護者に被害体験を話してもらっています。また北海道の「飲酒運転根絶の日」、福岡県の「飲酒運転撲滅週間」をはじめ、各地の交通安全推進活動に参加し、交通事故ゼロを訴えています。飲酒運転撲滅を目指す「チームゼロフクオカ」の一員でもあります。飲酒運転は重大事故を引き起こします。被害者遺族を生み出さないために、交通事故ゼロ、飲酒運転撲滅を強く目指しています。

山本 私も「こんなに悲しい思いを誰にもさせたくない」と飲酒運転撲滅へ声を上げ、活動を続けています。飲酒運転をなくすために一番大切なのは教育ではないでしょうか。「お酒を飲んだら運転をしてはいけません」と聞いて育った子どもたちが大人になり、飲酒運転はゼロが当たり前という社会をつくりたい。そのため発信を続けていきたいと思っています。

「育英会でも情報発信、広報に力を入れていますね。」

石橋 事故被害者の中には、われわれのような支援組織を知らない人がいます。一人でも多くの交通遺児を支援したいと、昨年4月、広報活動を強化するために広報課を立ち上げました。各地で交通安全を推進する団体との対談などを企画し、会の事業を知ってもらおうと努めています。同時に公益財団法人として寄付金の使途を明確にすることも大事です。財務諸表を100%公表しています。

「交通事故・飲酒運転ゼロのため、一人一人ができることはありますか。」

山本 福岡県では「飲酒運転を見かけたら110番」が県民の義務です。通報すること、誰かに知らせることは運転する人ももしない人も、大人も子どももできる飲酒運転ゼロへの取り組みです。

石橋 事故の遺族として体験を語る際、あるお母さんが言った「ハンドルの重みは命の重み」という言葉があります。誰もがこの言葉を心に持って運転することが大切だと思います。これからも事業を通して交通安全の大切さを伝え広げていきます。

交通安全の推進について

石橋 交通遺児の支援と同時に大切なのは、交通遺児となる子どもがいない安全な社会をつくることです。ドライバーの安全意識向上のため、企業の研修や学校での無料出張講演会を実施。育英会奨学生や保護者に被害体験を話してもらっています。また北海道の「飲酒運転根絶の日」、福岡県の「飲酒運転撲滅週間」をはじめ、各地の交通安全推進活動に参加し、交通事故ゼロを訴えています。飲酒運転撲滅を目指す「チームゼロフクオカ」の一員でもあります。飲酒運転は重大事故を引き起こします。被害者遺族を生み出さないために、交通事故ゼロ、飲酒運転撲滅を強く目指しています。

山本 私も「こんなに悲しい思いを誰にもさせたくない」と飲酒運転撲滅へ声を上げ、活動を続けています。飲酒運転をなくすために一番大切なのは教育ではないでしょうか。「お酒を飲んだら運転をしてはいけません」と聞いて育った子どもたちが大人になり、飲酒運転はゼロが当たり前という社会をつくりたい。そのため発信を続けていきたいと思っています。

「育英会でも情報発信、広報に力を入れていますね。」

石橋 事故被害者の中には、われわれのような支援組織を知らない人がいます。一人でも多くの交通遺児を支援したいと、昨年4月、広報活動を強化するために広報課を立ち上げました。各地で交通安全を推進する団体との対談などを企画し、会の事業を知ってもらおうと努めています。同時に公益財団法人として寄付金の使途を明確にすることも大事です。財務諸表を100%公表しています。

「交通事故・飲酒運転ゼロのため、一人一人ができることはありますか。」

山本 福岡県では「飲酒運転を見かけたら110番」が県民の義務です。通報すること、誰かに知らせることは運転する人ももしない人も、大人も子どももできる飲酒運転ゼロへの取り組みです。

石橋 事故の遺族として体験を語る際、あるお母さんが言った「ハンドルの重みは命の重み」という言葉があります。誰もがこの言葉を心に持って運転することが大切だと思います。これからも事業を通して交通安全の大切さを伝え広げていきます。

あしながおじさん 進学したよ
出会えてよかった 交通遺児育英会

交通遺児育英会は1969(昭和44)年に設立されました。50年以上にわたり、保護者が道路上の交通事故が原因で亡くなったり、重度の後遺障がいのため、経済的に修学が困難になった子どもたちに奨学金を無利子で貸与(一部給付)して、高校や大学への進学を支援し、社会有用の人材を育成することを目的に活動している民間の団体です。

大きく5つの事業から成り立っています

- 1 奨学金の無利子貸与(一部給付)
- 2 奨学生の指導および育成と交流
- 3 学生寮「心塾(こころじゅく)」の運営
- 4 修学支援金の給付
- 5 交通安全推進運動への協賛・協力、無料出張講演等

その他、広報紙「君とつばさ」を年5回発行しています。

学生寮「心塾」新東京寮(令和6年春オープン予定)

高校奨学生と保護者のつどい

米国での「海外語学研修」

学生寮「心塾」での成人式